

第9章 松山遺跡の調査

I 遺跡の立地と環境

松山遺跡は、亀居遺跡付近を湧水源とする福岡江川の左岸、武蔵野台地の一段低い立川段丘面に立地している。東側は荒川低地の沖積地と接し、標高9～10m前後の微高地を形成する。遺跡の範囲は南北500m、東西600m以上である。宅地開発されるが部分的に畠が残っている。

周辺の遺跡は、すぐ北側に縄文時代早期～後期、飛鳥時代および中近世にわたる長宮遺跡、福岡江川を挟んだ対岸には福岡新田遺跡、同じく対岸の250m南東側には、縄文時代前期集落の鷺森遺跡がある。また、西方約350mの比高差9mを持ってそびえる台地の南東崖面には富士見台横穴墓群が望まれる。

1978年の宅地造成に伴う緊急調査で奈良時代の住居跡を検出したのをはじめ、宅地造成などにより2021年4月現在約160地点で試掘および調査が行われている。主たる時代と遺構は、長宮遺跡と接した北寄りに飛鳥時代の住居跡、遺跡中央の東西240m、南北210m程度の範囲に奈良・平安時代の住居跡・掘立柱建物跡・井戸跡、中近世以降の溝・井戸跡などである。特に溝、井戸等の中近世の遺構は東側の低地へも広がりを見せており、遺跡範囲の変更増補を行った。

第25表 松山遺跡調査一覧表

地区 地点	所在地	調査期間 ()は試掘調査	開発面積 (m ²)	調査面積 (試掘)	調査原因	確認された遺構と遺物	備考	所収報告書
77	松山2-6-2・3・12 の各一部	(2014.3.3～11) 2014.3.13～26	493	(95) 22.8	個人住宅	古代住居跡1、土坑、墨書き器、土師器等		市内18
78	松山2-5-5	(2014.5.22)	242	(35.3)	個人住宅	遺構遺物なし		市内20
79	本新田395-1の一部	(2014.8.5)	153	(36)	個人住宅	遺構遺物なし		市内20
80	池上372	(2015.3.12)	1,183.4	(90)	個人住宅	遺構なし、培洛等		市内20
81	築地1-1-12	(2015.3.23)	247.49	(74.3)	分譲住宅	溝、遺物なし		市内20
82	本新田411の一部	(2015.7.30・31)	194	(35)	個人住宅	堀跡、縄文土器		市内22
83	仲1-2-22	(2015.8.31)	98	(6)	分譲住宅	遺構なし、縄文土器		市内22
84	築地3-4-13	(2015.9.15・16)	455	(190)	宅地造成	古代住居跡1、井戸、縄文土器等		市内22
85	池上362-1の一部、 364・365・366の一部	(2015.10.1～19) 2015.10.20～26	1,244.47	(485.6) 93	分譲住宅	古代住居跡2、焼土、溝、須恵器等		市内19
86	築地1-1-4	(2016.7.5・7)	294	(37.9)	分譲住宅	溝、陶磁器		市内24
87	築地3-1-21・22の一 部、39・40・41・84	(2016.9.14)	427	(29.5)	個人住宅	遺構遺物なし		市内24
88	築地1-3-36	(2016.10.13)	120	(18.8)	個人住宅	土坑、ピット、溝、遺物なし		市内24
89	築地2-1-11・16	(2017.3.3～6)	287.04	(89.3)	分譲住宅	遺構なし、須恵器		市内24
90	仲1-1-37の一部	(2017.10.12)	120	(12)	個人住宅	遺構遺物なし		市内24
91	築地1-3-8の一部	(2017.10.24)	416	(51.75)	個人住宅	溝、陶器等		市内24
92	築地3-4-3	(2017.10.30・31)	621	(177.75)	分譲住宅	土坑、ピット、縄文土器		市内24
93	築地3-5-72	(2017.11.27・28)	571.97	(114.35)	共同住宅	古代住居跡2、土坑、堀跡、溝、墨書き土器、土師器等		市内24
94	築地3-5-4	(2018.3.23)	1,508	(17.25)	作業場	古代住居跡1、ピット、土師器等		市内24
95	松山2-1-12	(2018.8.1・2、9.13)	353	(38.96)	分譲住宅	遺構遺物なし		市内25
96	仲1-1-34	(2018.8.20)	165.43	(31.95)	分譲住宅	堀跡、遺物なし		市内25
97	築地3-1-5・7の各 一部	(2018.10.30)	253	(61.93)	個人住宅	遺構遺物なし		市内25
98	松山2-2-4	(2018.11.1)	1,291.34	(54.46)	店舗	遺構なし、須恵器		市内25
99	仲2-4-2	(2019.1.11～15) 2019.1.21・22	673.35	(201.25) 33.8	分譲住宅	堀状遺構、陶磁器等		市内23
100	築地3-1-5の一部	(2019.8.8) 2019.8.9～23	327	(21) 45	個人住宅	古代住居跡1、土師器等		市内25
101	仲1-2-52・54	(2019.10.30～11.1)	1,219	(222)	分譲住宅	土坑、溝、遺物なし		市内25
102	築地2-3-14・15	(2020.3.17)	91	(5)	分譲住宅	遺構遺物なし		市内25
103	松山2-1-4の一部・ 1-5	(2020.6.10～12)	462	(137)	共同住宅	溝、須恵器等		市内26
104	池上356-1、357、 360の各一部	(2020.9.28・29)	1,586.87	(64.75)	宅地造成	土坑、溝、須恵器片		市内26
	池上355、356-1、 357、360、361の各 一部	(2020.9.28・29)	2,944.13	(4)	宅地造成	遺構遺物なし		市内26
105	仲2-1-8	(2020.10.22・12.25)	257.87	(77.65)	共同住宅	遺構なし、陶磁器		市内26



第34図 松山遺跡の地形と調査区(1/4,000)



第35図 松山遺跡遺構分布図(1/3,000)

②出土遺物

遺物の詳細については第 36 図及び第 26 表に掲載した。溝から須恵器片が 1 点出土したが、溝の時期を決定するものではない。

第 26 表 松山遺跡第 103 地点出土遺物観察表（単位 cm・g）

図版番号	出土遺構	種別・器種	口径・長さ	底径・幅	高さ・厚さ	重量	技法・文様・備考	時期・型式
第 36 図 -1	溝 2	須恵器坏	—	—	—	—	轆轤使用、胎土に海綿骨針含む、南比企産	8 世紀中頃
第 36 図 -2	遺構外	須恵器坏	—	6.6	—	—	轆轤使用、底部全面回転ヘラケズリ、胎土に海綿骨針含む、南比企産	8 世紀中頃
第 36 図 -3		須恵器甕	—	—	—	—	外面の叩き目・内面の亜当具痕はナデ消、胎土に海綿骨針含、南比企産	奈良・平安
第 36 図 -4		磁器碗	—	—	—	—	轆轤成形、失透色の釉、太白手、瀬戸美濃産	幕末

III 松山遺跡第 104 地点

(1) 調査の概要

調査は宅地造成に伴うもので、原因者より 2020 年 9 月 17 日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の南東部に位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため 2020 年 9 月 28・29 日に試掘調査を実施した。

試掘調査は幅約 2m のトレーナー 1 本と 1.5 m 四方のトレーナー 2ヶ所を設定し、重機による表土除去後人力による表面精査を行った。現地表面から地山ローム層までの深さは約 60～90 cm である。

調査の結果、溝 1 条を確認したが保護層の確保が可能なため、工事立会の措置とした。写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえで埋戻し、調査を終了した。

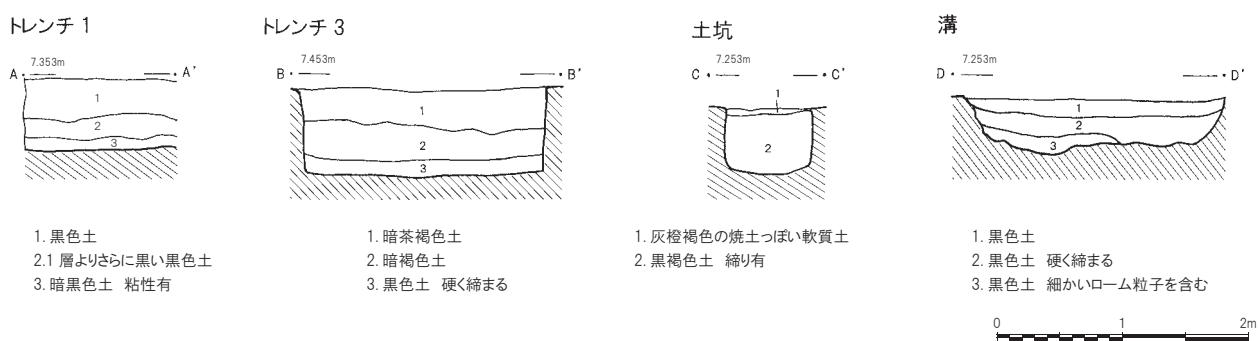
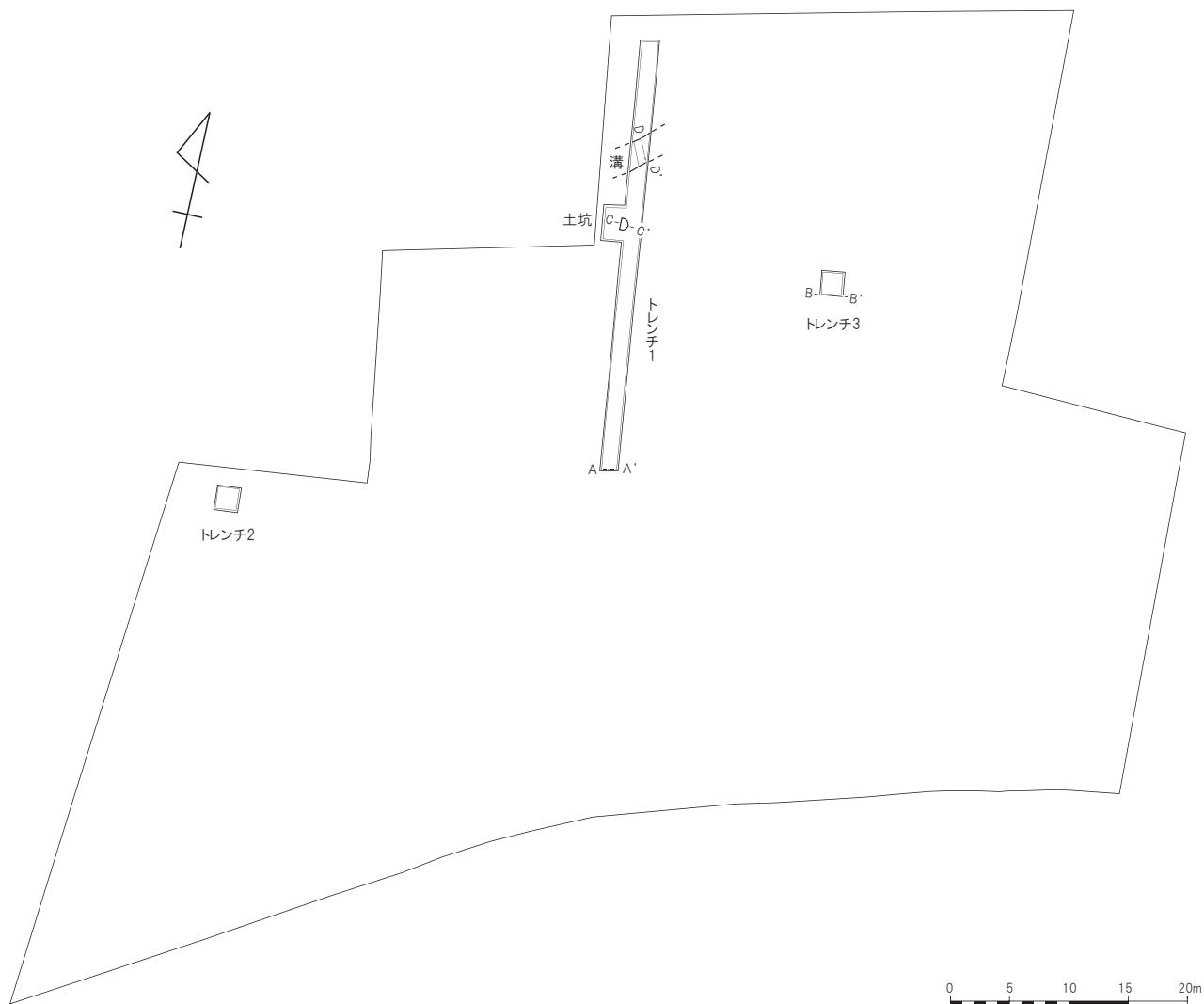
(2) 遺構と遺物

①溝

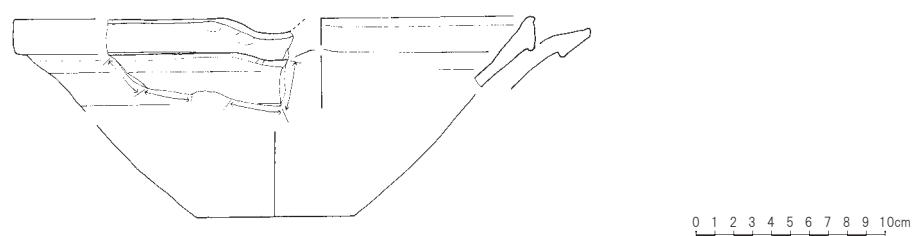
調査区中央に入れたトレーナー 1 の北側で確認した。走行方向は N-52°-E で、上幅 200 cm、下幅 170 cm、深さ 45 cm を測る。断面形態は逆台形を呈し、底面は比較的凹凸がある。走行方向や断面形態、覆土の特徴等から本地点の北側に位置する第 99 地点で検出した堀状遺構と同様である可能性が高い。

②出土遺物

遺物は遺構外から出土した須恵器系片口鉢の口縁部 1 点である。13 世紀後半～14 世紀前半の魚住窯産で、帯状の縁帶を持ち、縁帶には弱い降灰が見られる。割れ口部を砥石として転用している。



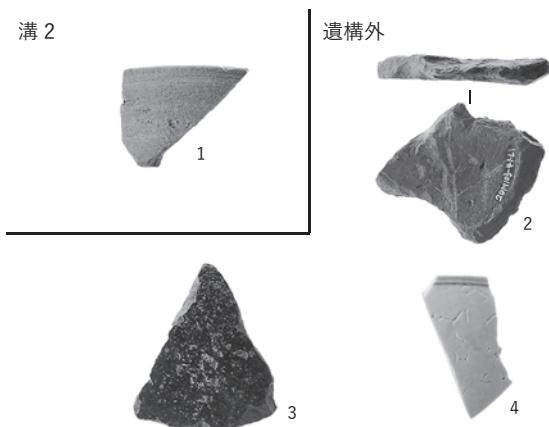
遺構外



第37図 松山遺跡第104地点遺構配置図(1/600)、土層・土坑・溝(1/60)、出土遺物(1/4)



松山遺跡第 103 地点トレンチ 1



松山遺跡第 103 地点出土遺物



松山遺跡第 103 地点トレンチ 3 溝



松山遺跡第 103 地点調査風景



松山遺跡第 104 地点トレンチ 1



松山遺跡第 104 地点トレンチ 1

遺構外



松山遺跡第 104 地点出土遺物